

食支援つうしん

—新宿食支援研究会通信—

第6号 2015.6.1 発行

メルマガの話から・・・航空力学的に考えると、くま蜂の羽は十分な面積がないため、たとえどれだけ早く羽を動かしても飛べるはずがない構造になっている。では何故、くま蜂は飛べるのか？・・・それは、誰もくま蜂に飛ぶことができない事実を教えておらず、くま蜂自身も飛べない羽であることを知らないからだそうです。

人は、自己イメージで行動する傾向があり、出来ないことを目の前にすると、「それは無理!」「たぶんできないでしょう」、「難しすぎる～」という言葉が発し、そのように行動をとってしまいます。だから、常に自分に対して前向きな情報を入力していくことが大切だということでした。

現在、コンセプトの活動に参加していますが、先人の凄い方々は、「絶対できるぞ!」「必ず創るぞ!」という情報を常に強く発していたんだなあと思えました。

実は、くま蜂のことをさらに調べてみると、



人間や飛行機など大きい物体ではサラサラな空気も、小さい昆虫には、空気はネバネバしたもののように、まるで水中を泳ぐ時のように空気を捕えます。

これは航空力学では説明できないが、くま蜂が飛べるという理由のようです。

これから、新食研ならではの良い物を創れるよう、皆さまの多大なるご指導お力添えをよろしくお願ひします。

(福祉用具メーカー 清水 貴之)

食事をするための姿勢

第3回 姿勢が食事に与える影響

加齢や病気によって、食事をするために望ましい姿勢を形成・保持・調整することが困難になると、食事時に様々な問題を引き



起こします。例えば姿勢崩れによって頸部周囲筋が緊張すると、咀嚼・嚥下がスムーズに行えなくなります。また、不良姿勢の持続により内臓が圧迫され、食事摂取量の低下に繋がる可能性もあります。あるいは姿勢崩れや環境の問題により、食物や口へのリーチがうまくいかず食べることが出来なくなります。食事行為の一連の流れ(先行期～食道期まで)が努力的になればなるほど疲労も引き起こし、食事を「味わって楽しむ」余裕は失われていきます。

理学療法士は、対象者の食事摂取を阻害している因子を評価・予測し、その方の身体状況や能力に応じた食事に適する姿勢を形成できるように調整していきます。その一つがポジショニングです。食事の姿勢の改善には速攻性が求められ、ほんの一工夫で食べられるようになる方も少なくありません。一人でも多くの方に食事を楽しんでもらえるよう、関わる全ての職種の方が、まずは「食事の基本姿勢」や「姿勢崩れが食事に与える影響」を理解し、その上で対象者の食事を常に観察し工夫してみようと思う気持ちが大切であると思います。

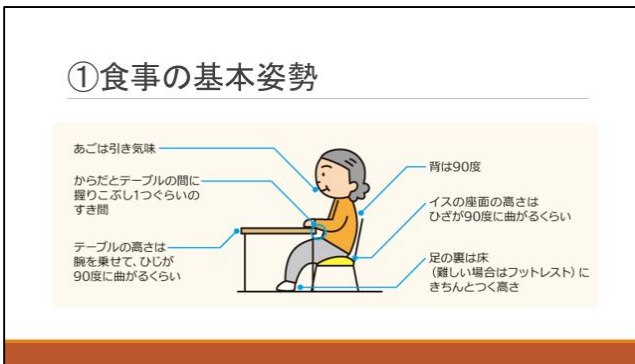
(理学療法士 河野 悦子)

食姿勢を再考する

～新しい用具開発に向けて～

福祉用具専門相談員 新城 早師

新食研WGファンタジスタから「食姿勢」というキーワードが生まれました。それは、日常で我々が使っている「食事姿勢」の意味とは違います。食事の姿勢で理想的な定義は色々あると思いますが、現実的に高齢者や障害者が、理想的な食事姿勢を保持するのはとても困難だと思います(下図)。その状況を踏まえ、新食研WGコンセプトは「食姿勢」の定義づけをしました。

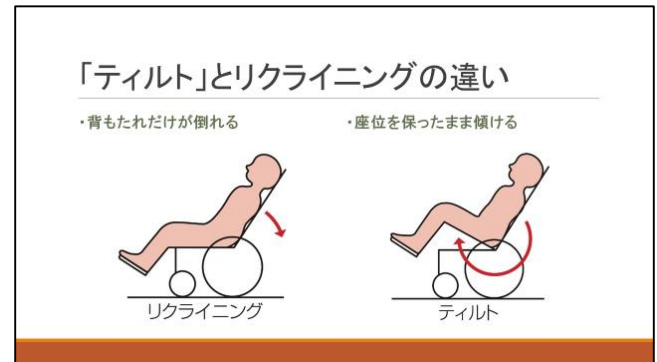


食姿勢の定義を、「**食姿勢とはその方にとって最も安心・安全に楽しく食事ができる姿勢**」としました。

そのための環境づくりを目指すのが我々専門職としての仕事です。単なる「食姿勢」という言葉を使用してしまわないように、共通のワード(定義)として皆さまの現場で活かされる事を願います。

さて、福祉用具で姿勢をサポートするのは色々ありますが、当然、万人にフィットするもの!はありません。現場では、その人の状態によって様々な部位にクッションを当てたり、椅子に工夫をしてみたり、踏み台を設置したりなどしています。姿勢を保持する福祉用具の一つにティルト型車いすがあります。座位姿勢保持の困難な方への手法として使用します。

ぜひ皆さまには、リクライニング型車いすとティルト型車いすの仕組みが違うということを知って頂きたいと思います。食姿勢に大きく影響します。



リクライニング型車いすは、ただ背もたれを倒すだけの機能です。その車いすで食事を摂る場合は、姿勢が崩れ、仙骨座りとなりやすく、食べにくい姿勢となります。それに対してティルト型車いすは座位姿勢を保持したまま傾けることができ、姿勢が崩れにくく、食べやすい姿勢を保持できます。

福祉用具は年々良くなってきています。コンパクトなティルト型車いすや、リクライニングとティルトの両機能がついた車いすなども出ています。付属品では、クッションを始め、ヘッドサポートなども良いものが出ています。また私たちが普段座っている椅子では、骨盤を立たせる福祉用具も出ています。

「食姿勢」を考える姿勢・環境づくりに、課題は山積みですが、普段の姿勢で食事を摂る事が困難な



方に視点を向け、今後の新食研WGコンセプトは、「食姿勢」を考えた福祉用具の開発を目指していきます。